

令和4年度神奈川県献血推進協議会 開催結果
(令和5年2月14日～3月10日 書面開催)

1 議題

令和5年度神奈川県献血推進計画(案): 承認する 18人/承認しない 0人

上記のとおり、議題は承認されました。

2 その他

各委員から、次のとおり御意見、御質問が寄せられました。

いただいた貴重な御意見等は、今後の献血推進の参考とさせていただきます。

【公益社団法人神奈川県薬剤師会 唐澤委員】

○ 資料3-1 P2 生徒・学生に対する普及啓発

ターゲットは、高校生・大学生への啓発で、学園祭時に社会貢献の一環としての献血協力依頼。大学側の協力は不可欠だと思いますが、神奈川大学とかに働きかけてみてはいかがでしょうか。

献血協力の呼びかけをする時、子連れの方には声はかけられないです。

移動献血車では無理かもしれませんが、認可保育園の協力お願いして、親が献血している間子供が遊んで待ってられる環境を作れば、小さい頃から献血(親がやっているから当然)への理解も育てられるのではないかと思います。

(私の勉強不足でもし、もう実施されていたらすみません)

【事務局回答】

大学等の学園祭において献血バスの配車は、県内の数校で行っておりますが、献血者数は多くない状況です。大学献血については、年度初めの新入生等を中心とした春の献血、また、後期の授業開始時期に合わせた秋の献血を実施するなど、各学校の校風を生かした実施形態により献血者確保に努めております。新型コロナウイルス感染症の感染拡大時期は、実施不可の学校がほとんどでしたが、感染規模縮小に伴い、実施可能となる学校は増えてきています。

保護者の献血中にお子様をお預かりする「お子様見守りサービス」については、県内2ヶ所(川崎ルフロン、海老名)の献血ルームで、赤十字奉仕団をはじめとするボランティア団体等の協力を得て、定期的に実施をしております。現状では場所や回数が限定的となっておりますが、今後とも献血の機会拡大に寄与できればと存じます。

【株式会社テレビ神奈川 近藤委員】

○ 資料1にある献血者数令和4年度の数字は12月の数字であり実績見込みとしては、令和3年度と同様に年度末には目標に達するという認識で大丈夫でしょうか？

【事務局回答】

昨年度同様、年度末には目標数を達成できるよう努力しております。なお、2月末の時点では、昨年度より2,731人多く献血協力をいただいている状況です。引き続き献血者確保のための推進活動にお力添え賜れば幸いです。

【公募 鈴木委員】

- 年齢別献血状況は相変わらず40才台、50才台が過半数を占めていることから、その状況が高齢化シフトし、60才台構成比が20才台構成比（13%半ば）を超えるのも遠くないと思われます。

実際、健康な高齢者でリタイアされている場合には時間的にも余裕があることから、献血に協力頂ける年代として大いにアピールする必要があるかと思います。失業給付を受けるために訪れるハローワークや年金事務所に献血協力を呼びかけるリーフレットを設置するなど工夫をされるのも宜しいかと思います。

他方、若年層の献血協力への呼びかけはより一層尽力することが必要です。大学の新入生への呼びかけは勿論、Jリーグやプロ野球のスタジアムで観戦者対象の献血キャンペーンを行うこともよいかと思います。

二俣川の免許センター隣の献血センターは待ち時間をもて余している方々にとっても有効だと思います。現在成分献血は行っていないようですので、成分献血ができるようになると良いと思います。

【事務局回答】

少子高齢化に伴う献血率および年代構成比の変化については、県、血液センターとしても懸念しております。献血の機会をアピールするためのご提案は、今後の献血推進活動の一助とさせていただきます。

若年層への啓発活動として、Jリーグの試合時における企画を、複数のクラブとタイアップして随時実施しています。また、高校生へのチラシの配布や、神奈川県学生献血推進連盟等のボランティア団体と協働したイベントを行うなど、若年層献血者の確保に努めております。なお、プロ野球に関しては実施したこともありましたが、現在は実施できていない状況です。

二俣川献血ルームにおける成分献血については、平成21年度まで実施しておりましたが、ベッド数が少ないこと、成分献血は一人当たりの所要時間が長くなることから、献血者数を増やすことが難しいと判断し、現在は全血専用ルームとして運用しておりますこと、ご理解いただけますようお願いいたします。

【株式会社神奈川新聞社 畠山委員】

○ 計画に対する意見は特にありません。

新型コロナウイルスの感染拡大のなか、献血の現場で尽力されている皆様のご苦勞をお察し申し上げます。令和4年の実績を拝見すると、なかなか厳しい数字が並んでいるようにお見受けします。5月以降の「5類」移行が、献血活動への追い風になるようお祈り申し上げます。

【事務局回答】

新型コロナウイルス感染症の蔓延下においても、献血会場における感染対策、予約献血を行い、献血への協力を呼びかけてまいりましたが、引き続き献血推進活動にご理解ご協力いただけますようお願いいたします。

【NPO 法人アドバイザーネットワーク神奈川 藤澤委員】

○ 私事ですが、家族の病気治療の際に、複数回、輸血頂く機会があり、目に見えて快復する様子に、献血の恩恵をあらためて実感しました。

また、一方で、積極的な治療がのぞめなくなった際には、輸血ものぞめなくなるという厳しい現実にも直面することも知りました。

献血という行為が、何故必要なのか、いかに見知らぬ誰かの役に立つのか、伝えられるよう、SNS等での情報発信や、セミナー開催等、普及啓発事業をさらに進めて頂きたいと思っています。

【事務局回答】

日本赤十字社では、全国統一で実施するキャンペーン・テレビCMを使用した広報展開をおこなっており、神奈川県赤十字センターとしては、献血に無関心な層と接点を持つきっかけとして、鉄道・アニメ・Jリーグ等、幅広いコラボキャンペーンを展開しております。

また、委員からご指摘されている「献血が見知らぬ誰かの役に立っていること」を伝える一助として、血液センターのホームページおよび管内の医療機関（県立こども医療センター、横浜市立みなと赤十字病院、横浜労災病院、北里大学病院）において、輸血経験者並びにそのご家族からの「ありがとうの声」を募集しています。令和4年度は合計で12件の感謝の声が寄せられ、血液センターホームページやSNSで公開しています。併せて、動画（「Life Goes On」シリーズ、4作品製作）を血液センターや県のホームページなどで公開し、輸血経験者やご家族の生の声を発信しています。

今後とも、より幅広い層への献血の輪を広めるべく、献血へのご理解、ご協力を賜れるよう積極的に献血の普及活動に努めて参ります。

【日本労働組合総連合会神奈川県連合会 真崎委員】

- 献血推進計画について、よく考えられていると思いますので、特段の意見はございません。
- この３年間はコロナ禍で団体の献血が難しかったと思いますが、徐々にもどってくるような状況と想定します。着実な献血推進計画の取り組みをお願いいたします。

【事務局回答】

新型コロナウイルス感染症の蔓延下においても、献血会場における感染対策、予約献血を行い、献血への協力を呼びかけてまいりましたが、引き続き献血推進計画の実施について、ご理解ご協力いただけますようお願いいたします。

(50 音順)